

外科など新設 “芙蓉病院”の拡張成る

財団法人ふよう協会の「ふよう病院は県下刀圭界のないかにその人ありと知られた沼津千本緑町の須田寛作氏を院長とし終戦後新たな視覚を開いて誕生したもので米国ミヅリー州プユリナ会社の社長ダン・フォース氏が須田寛作氏の長女田子政子夫人の懇情に応じて病院建設資金として金一万ドルが贈られて来た、田子夫人は京都同志社に学びダン・フォース氏の奨学金を得て戦前米国ベリアア大学に入り音楽と教育学を専攻して帰朝した夫人学者でダン・フォース氏が田子夫人の請を入れ病院建設資金を贈られたのもこうした関係による温い気持からであってふよう病院の名前はダン・フォース氏が智的、身体的、宗教的、社会的面に

おいて総合的人間生活を強調これを理想として我が国にも来朝したことがあり、神巖な富士山を人間道の象徴と仰ぎ常に富士山を引用して青年達の指導に盡されているダン・フォース氏の心を心として「フヨウ病院」と名付けたものである故に「フヨウ病院」は国際的美しい友情のシンボルとして社会奉仕の線に沿って新使命に向い高い理想をもって新発足今日に至ったものである

従来「フヨウ病院」は内科、婦人科を主としレントゲン設備等もあつたが病院機能としては外科を新設する必要ありとし、これに加えてひ尿科、皮膚科の三科を新設と同時に胸郭手術設備等を完全に整え、これに慈恵医

大出身の二大新進青年医師を配置し健康保険を活用し社会福祉の面にも大いに意を注いで名実共に「フヨウ」の名にそむかぬよう新たな発足を見ることになつた、なお外科手術も大手術を要する場合は慈恵医大と綿密な連絡があるので応援を求めるともいと易く外科を担当する新人二青年医師は一人は山本眞澄先生で千葉県の出身、慈恵医大卒業後昭和二十三年以来付属病院で外科手術について臨床研究を続けていた学者肌の温厚な人格者で、もう一人は神奈川県の出身で服部常尚先生、児玉秀一医博に師事、鎌倉のヒロ病院で臨床の外科主任をこの程まで勤めていた青年紳士らしい温厚な明るい性格の持主であつて両先生とも今後の「ふよう病院」の明るい断面と市民の信頼を築いて行くであろう